



# 学 園 通

練馬区立大泉学園中学校

平成 29 年 7 月 18 日 発行 校長 晴佐久和彦

## これからの子ども達に必要な力

梅雨明け発表はありませんが、ほぼ夏空と言っていいような暑い日が続いています。学校では学期末を控えて通知表の作成そして夏休みの準備と、慌ただしくも充実した日々の中で教育活動に邁進しております。

先日、各区立中学校PTAの連合体である、略称「中P連」の情報交換会に出席しました。毎年、多くの班に分かれて協議を深め、その後、相互の報告会が開かれるのですが、その中で印象的だった内容をご紹介します。ご紹介しながら、一緒に考えを深めてみたいと思います。

今年も子ども達に関する様々なテーマが取り上げられていましたが、まず、課題として「想像力の不足」という意見が出されました。また、その背景として「知っているはずのことを知らない現状」ということも言われていました。デジタル化、情報化が進み、様々な細かな情報もどんどん入手できる時代です。それが逆に、ある特定の分野に関しては詳しくなっても、一時代前に常識として誰しも身につけていたことが理解されていないという現状につながっているのかも知れません。ところで、ここで言う「想像力」とは発想力や創造性といった分野とともに、周囲の人への「共感力」という面も含んでいるように思います。深く、親密な人間関係を通して、相手の立場になって考える、さらには「相手の心に思いを致す」といった謙虚な心持が少しずつ磨かれるものですが、学校生活の中で、そうした心の持ち方を育てていく教育を進める必要を感じています。

さらに、前段の内容とも関連して、「予測不能なことに対応する力」が大切であるとの意見も出されてきました。このことは現代社会の急激な変化の中でよく話題になっていますが、想像を超えるような事態・将来にも、冷静に前向きに対処できる能力が必要かと思います。ある方は「最近、社会全体で何でも子ども達のためにセッティングしてしまい、手伝い過ぎになっているのではないか」との趣旨で話されていました。確かに道筋を付け過ぎては主体的な対応力が生まれませんし、学校の中でもこうした傾向があるのではと反省させられます。子ども達に自ら考えさせ、解決策を見つけさせていくことは手間・時間がかかります。しかし、その分大きな成果を得られることも確かです。今回の意見交換会も保護者・地域の方とじっくりと話し合うことで、私自身、視野を広げる良い機会となりました。

さて、今週金曜日より42日間の夏季休業日に入ります。まずは無事故で充実した夏休みとなることを願っております。学校では補充教室をはじめ、臨海学校、部活動、3年生三者面談等予定しておりますが、お子様は多くの時間、ご家庭で過ごすこととなります。出来ましたらゆっくり話す時間をとっていただき、今号で述べたようなこれからの子ども達に必要なとされる力、また課題となることなどお話しくださると有り難く存じます。学校としても出来るだけ将来を見据えた大きな視点で、2学期以降の準備を進めてまいります。

## 歯磨きコンクール 実施



2・3年生は6月12日（月）～16日（金）、1年生は翌週の6月19日（月）～23日（金）に歯磨きコンクールを実施しました。

昼休みに歯を磨いている人数を保健給食委員が数え、トータルで歯磨きをしていた人の人数が多かったクラスを表彰します。ルールは、①「必ず歯ブラシを使う（口をゆすぐだけや液体歯磨き等は不可）」、②「自分の教室のある階の水飲み場で磨く」、③「歯磨きをしている

人数は昼休みに数える」の3点です。

今年度は、優勝が1年A組、準優勝が2年E組に決定しました。コンクール期間だけでなく、日頃から、「食べたら磨く」習慣を身に付けて、むし歯のない健康な歯を維持していきましょう。

## 進路講演会



7月7日（金）の6時間目に、3年生の生徒と全学年の保護者の希望者を対象に進路講演会を行いました。都立高校、私立高校から先生をお招きし、高校での教育内容や学校生活、入試や進路選択への心構えなど、4クラスにローテーションで入っていただき、お話ししていただきました。

先生方からは、「高校見学に出かけて、自分の目で高校の雰囲気や生徒を見て、学校生活を肌で感じてみるのが大切。」「公立学校には『教育目標』、私立高校には創立者の『建学の精神』なるものがある。行事や部活なども様々な特色があるのでよく調べよう。」「志望校の選択は人任せにしない。自分の道は自分で切り拓くもの。」など、様々なことを教えていただきました。「授業が本分。勉強が嫌いな人は高校には向きません。」という、厳しいお言葉もありました。生徒達は真剣にお話を聞いていました。また学年を超えて70名以上の保護者の方々にご参加いただきました。

## 職場（福祉）体験学習に向けて

2年生では、現在、9月に行われる「職場（福祉）体験学習」に向けて、事前学習に取り組んでいます。6月16日（金）の4、5時間目には、都立大泉桜高校の先生をお招きして進路講演会を、7月の5日（水）の5時間目と10日（月）の1時間目の2時間では、4つの内容の事前体験学習と、自己紹介文の作成を各クラスローテーションで行いました。

今回の事前体験学習で行った内容は、①DVD学習、②高齢者体験、③車いす体験、④白杖（はくじょう）体験です。例えば、DVD学習では、福祉施設に体験に行く中学生の様子をDVDで見ながら、自分たちが施設を訪問する際の心構え注意事項について学びました。また、高齢者体験、車いす体験、白杖体験では、実際にお年寄りや、障がいのある方の立場



に立って、どのような手助けを必要としているのか、また、日常生活の中の様々な場面にどのような不自由さ、困難さ、または恐怖感を感じているのかを体験の中から学びました。

体験学習を進めていく中で、生徒達は、日頃、自分たちには気にならないような小さな段差も、車いすに乗っているときや、白杖を使って歩いているときには大きな障害となることや、普段歩き慣れている廊下や教室内でも、体の動きを制限されたり、視野が確保されていないと、危険を伴ったり、恐怖を感じることを肌で感じ取っていきました。そして、車いすを操作するときに注意しなければならないこと、目の不自由な人をサポートする際に気を付けなければならないこと、お年寄りが行動する際にどのような手助けを必要としているのかを体験を通して学んでいきました。

事前学習を通して学んだことを、実際に高齢者施設や、障がい者施設で体験学習をさせていただく際に活かせるよう、準備を進めていきたいです。



## 職業講話（同窓生のお話を聞く会）



7月8日（土）の2、3時間目に、進路学習の一環として、1年生で職業講話（同窓生のお話を聞く会）を行いました。卒業生の佐藤公明さんと河野孝史さんが講師として来てくださいました。生徒達にとっては大先輩のおふたりで、みんな真剣にお話を聞いていました。



中学生時代の思い出や、現在の職業を通して感じていること、「仕事」、「働く」とは・・・、中学生に伝えたことなど、約1時間にわたってお話をいただきました。「中学校時代は多くの友人を作りたい。その友人が将来にわたって支え合い、励まし合い、切磋し合う仲間となる。」「人の話を聞くことができるということが何よりも大切である。」「自分の事だけを思って仕事を選ぶ人は失敗する。人のために役立つ、喜んでもらえるには…と考えると良い仕事に巡り会える。」「何事も楽しんでやること。人から言われてやるか、自分から進んでやるかでその気持ちには差が出る。」「時間は貴重なもの。自分に与えられている時間が永遠であると思ってしまうはいけない。無駄にして良い時間など無い。」など、ご自身の経験をもとに、分かりやすくお話をしてくださいました。

また、お二人がご自身の仕事について語られた中で、河野さんが『保険』を扱っているので、お客様にとって辛い場面に立ち会うことも多い。でも、そんな中で、その人のために何が出来るか、どうすれば喜んでいただけるのかを考えている。」とおっしゃっていたことや、佐藤さんが、「和菓

また、お二人がご自身の仕事について語られた中で、河野さんが『保険』を扱っているので、お客様にとって辛い場面に立ち会うことも多い。でも、そんな中で、その人のために何が出来るか、どうすれば喜んでいただけるのかを考えている。」とおっしゃっていたことや、佐藤さんが、「和菓

子の『和』は『なごむ』という字。心が和む、人と人とのつながりが和菓子。」「お店の職人さんには、同じ物は作るなど言っている。お客様から見たら同じに見えても今作ったひとつよりも、次に作るひとつが少しでも良く出来るように工夫をしなければならない。」とおっしゃっていたことが印象的でした。こんな素敵な気持ちでお仕事に取り組んでいらっしゃるお二人からお話を伺うことができ、とても有意義な時間となりました。



### 生徒のお礼の手紙より・・・

今日は、お忙しい中、私たちにお話をしてくださって本当にありがとうございました。河野さんが、仕事に関する様々なお話をしていた中で、特に、「一番仕事にやりがいを感じるのは、お客様が喜んでくるとき」と話されていたことが印象に残っています。その時私は、「相手の気持ちを考える大切さ」を学びました。私も河野さんのように、相手の気持ちを考えられるような人になりたいです。

暑い中来ていただき、話をしてくださってありがとうございました。私は和菓子が大好きです。佐藤さんのお店にもたまに行きます。それを祖父にあげるのですが、病気で辛そうな祖父の顔が笑顔へと変わります。だから大好きです。和菓子は本当にその場を和ませ、生活を少し楽しいものにすると思います。そういう魔法のような力のある和菓子をこれからも作り続け、笑顔をお届けしてください。

## 技術・家庭科 コラボレーション授業

3年生の技術科では、「生物の育成」の単元で、小松菜の水耕栽培を行いました。種から芽が出て、生徒ひとりひとりが、少しずつ成長していく小松菜を、日当たりを気にしたり、水を欠かさないように注意しながら育ててきました。



大きく成長した小松菜は、家庭科の調理実習の授業で調理し、みんなで食べました。いくつかのメニューが提案されましたが、ほとんどのグループはグラタンを選択していました。ジャガイモとベーコン、そして小松菜のホワイトソースグラタンです。小松菜の育ち具合によって、正真正銘の「小松菜グラタン」から、「ポテトとベーコンのグラタン、小松菜入り(?)」までありましたが、みんな楽しそうに調理し、試食していました。



自分たちが育てたものを食べるという体験を通し、「食べ物」として自分たちのもつてくるまでの手間や、命をいただくということを意識し、食べ物を無駄にしないという気持ちを一層強めてくれたことと思います。

